

2024 年度学校評価アンケートをうけて

洛星中学校・高等学校
小田 恵

1

ICT 教育の遅れがここ数年来の課題となっていましたが、ハード面についてはかなり充実した 1 年でした。授業での活用があまりなされていないのでは、という指摘がなされています。これについては、Chromebook や PC はあくまで「ツール」（文房具のようなもの）であって、その使用を目的とはするものではない、と認識しています。

体調不良をはじめ様々な事情で国際交流についての評価も低くなっています。これまでには、国際交流の窓口が定まっておらず、主に英語科教員の善意に頼るという状況で、交流の機会を活用できませんでした。このことを反省し、2025 年度からは国際交流担当者を定め、海外研修のような大きなイベントから小さな交流イベントまで多種多様なプログラム参加を生徒諸君に積極的に紹介していきます。

2

今回、本校の教育方針（カトリック精神に基づく全人教育）を理解しているか、との項目で満足度の低い回答となったのは、2024 年 3 月末でのヴィアトール修道会の日本撤退、また、本校チャプレンのウィリアム神父の離日などが大きく影響したととらえています。

カトリックミッションスクールとして最も大事にしていることなどを、教職員全体で今一度共通理解として持ち、生徒に抽象的な概念としてではなく、わかりやすいことばで伝えていく必要があると痛感しております。

その礎となる生徒心得にある五つの総則の重要性を再認識し、徹底していきます。

3

教職員（特に担任）と生徒との関係についてはおおむね良好との評価を得ていますが、生徒に「寄り添う」ことができるよう、教職員の研修を深めてまいります。

教育相談について、これまでには担任を中心でしたが、教育相談の体制を見直しつつあります。

授業については、担当者によっての進度の差、「わかりやすさ」、対応の差について不満の声がでています。これにつきましては、教員間での研修・研鑽の機会を増やすことや、各授業でのアンケート実施を必須とすることを通じ、教員全員が常に学び、成長することを促しております。

4

校内設備については、国の補助金の活用や関係各所の協力により改善しております。何よりも生徒の日々の学びと安全を第一に計画・施行してまいります。